近畿地区道路利用者会議会長

岡田高大

福井県大野市長

平成29年の年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

平素は、当会議の運営及び諸活動につきまして、格別のご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

近畿地区では、今年春に新名神高速道路「城陽~八幡」、京奈和自動車道「岩出根来~和歌山間」、中部縦貫自動車道「永平寺~上志比間」、北近畿豊岡自動車道「八鹿氷ノ山~日高間」が開通します。また、夏には京奈和自動車道「御所南~五條北間」、秋には新名神高速道路「高槻~川西間」が開通する予定になっており、高規格幹線道路ネットワークの整備が着々と進められていることは、大変喜ばしいことであり、関係者の皆様に感謝申し上げます。

さて、昨年は、4月の熊本地震をはじめ、10月の鳥取県中部地震、11月の福島県沖、年末の茨城県北部の地震など、大規模な地震が各地で発生しました。また、6つの台風が上陸し、8月に観測史上初めて東北地方の太平洋側に上陸した台風10号等は、北海道や東北地方に豪雨による大きな被害をもたらしました。

なかでも熊本地震では、道路の寸断が救助・救援活動や物資の輸送の障害となったことが報道され、幹線道路ネットワークの充実や橋梁の耐震化の重要性が再認識されたところであります。今後、南海トラフ巨大地震などの大規模地震やそれによる津波の被害が想定されている近畿地区においても、強靭な国土を形成するため、こうした防災上不可欠な道路網の充実・強化を総合的かつ計画的に実施していくことが重要であります。

また、高規格幹線道路等のミッシングリンクの解消や暫定2車線区間の4車線化は、国土強靭化のみならず、生産性の向上による経済成長や国際競争力の強化、地方創生に大きく寄与し、近畿地区の再生、ひいては日本再生に直結することから、より一層強力に推進していく必要があります。

さらに、高度経済成長期に集中的に整備されてきたトンネル、橋梁等の老朽化が急速に進行しており、これらの道路構造物の点検・補修・更新など適切な維持管理を進めていく必要があります。通学路等の交通安全対策や物流・人流による生産性を向上させるための渋滞対策、無電柱化等による良好な道路環境の整備、高速道路のSA、PAや道の駅の整備等についても進めていかなければなりません。

このように近畿地区においても、道路に関する数多くの課題を抱えていますが、道路整備を進めるには、まずは財源の確保が必要になります。依然として厳しい財政状況が続いていますが、当会としましても、高規格幹線道路から生活道路に至る道路整備が着実に推進されるよう、長期的かつ安定的な道路関係予算の確保を引き続き強く訴えていきますので、関係者の皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後に本年が皆様にとりまして素晴らしい年になりますことを心から祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

中国地区道路利用者会議会長

檜山俊宏

広島県議会議員

平成29年の年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

当会議の運営及び諸活動につきましては、日ごろから格別のご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

近年、東日本大震災をはじめ、集中豪雨や台風等による痛ましい自然災害が全国各地で相次いで発生しております。

昨年を振り返りますと、熊本地震、鳥取県中部の地震や北海道・東北地方を襲った台風により、大きな災害が発生しております。あらためて、お見舞いを申し上げますとともに、被災された地域の1日も早い復旧・復興を願うものであります。

中国地方においても、平成26年8月の豪雨により甚大な被害を被っており、寸断された交通網が、周辺道路において渋滞を発生させ、災害物資の輸送など復旧活動に支障をきたしました。まさに道路が必要不可欠な「命の道」であると再認識いたしました。

地震や集中豪雨による河川の氾濫などによる自然災害はいつどこで起こってもおかしくない状況となっており、災害リスクは増々高まっています。

しかしながら、中国地方を俯瞰すると、緊急輸送道路の核となる高速道路ネットワークは、山陰地方を中心に未供用区間が多く存在しており、また、一般道の整備も十分と言える状況ではありません。これらの早期整備と機能強化は、災害発生時の住民避難や復旧活動等、災害に強い国土の構築に資するのみならず、個性ある地域・コンパクトな拠点を道路ネットワークでつなぎ、地域・拠点の連携を確保する等、地方の創生に不可欠なことは言うまでもありません。

また、老朽化した社会資本への対応は、道路利用者の命や暮らしを守る観点からも急務であります。そのためにも、橋梁などの道路施設の計画的な点検を行い、構造物の安全性を徹底的に診断し、老朽化に係る必要な措置を実施することや、複数年にわたる大規模修繕や更新等、長期安定的なインフラの再構築が必要不可欠でございます。

こうした中、当会議といたしましては、道路利用者の立場から、活力にあふれ、安心できる社会を次の世代に引き継ぐため、一人一人が道路の現状を認識し、必要な道路整備の着実な実施に向け、関係各位の皆様とともに全力で取り組んで参りたいと考えておりますので、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして幸せで実り多く、大いなる飛躍の年となりますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

↙より一層推進していく事を固く決意いたしました。加えて、ミッシングリンクの解消に対してスピード感をもって取り組む必要があります。

また、「地方の創生」を進めていくという事は、今後どの自治体も避けて通れない大きな課題であります。定住するための拠点を結ぶネットワークの整備により、日常生活や地域の産業活動を支え、渋滞の解消、企業、観光客誘致などが促進され、生産性の向上、交流機会の拡大、地方活性化といった社会資本整備の本来の役割であるストック効果を最大限に発揮させ、地域の発展を図る必要があります。

さらに、通学路や生活道路、自転車通行空間確保等の暮らしの道の安全対策・交通事故対策、人流・物流の生産性の向上のための渋滞対策、無電柱化の推進など、利便性・安全性を向上させ、安全・安心な道路の確保と維持管理に取り組むことも地域として必要なことです。

道路事業関係予算の確保など、道路整備を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。しかしながら「地方の創生」を実現させるためにも、道路整備の必要性と長期安定的な道路予算の確保を強く訴えて行かなければならないと思います。

最後になりますが、本年も皆様方のご健勝とご多幸を心より祈念しまして新年のあいさつとします。

主張

インフラツーリズム

国土交通省が昨年、インフラツーリズムのポータルサイトを開設した。このサイトでは、ダムや砂防施設、放水路、道路、港湾などのインフラを間近に見学したり、体験したりできる数々のツアーが紹介されている。掲載情報は定期的に更新され、旬なツアーの最新情報も紹介されている。開設から1年を経て、掲載される情報もどんどん増えてきているようだ。

インフラツーリズムは、巨大な構造物そのものが持つ圧倒的な存在感という魅力に加え、普段は立入禁止の場所に立ち入ることができるプレミアム感や、施設管理の実務に携わっている担当者から現場での苦労、工夫、感動などのドラマを聞けるという特別な経験も魅力となって、人気が高まっている。見学している施設の意義、最先端の建設技術、維持管理の取組とその役割などを学べることも、当然ながら魅力の一つだろう。また、インフラについて学ぶことは、地域の歴史や現状について学ぶことでもある。ツアーのメニューに地域についての学びが組み込まれていれば、一般の観光地巡りとはひと味違った新たな観光として、地域振興の促進にも一役買うことができるかもしれない。

政府が進める外国人の誘客の面でも、インフラツーリズムは柱の施策の一つとして位置づけられている。インフラツアーに多数の外国人が参加すれば、日本の技術力を世界に発信することができ、インフラの海外展開への支援の効果も期待できるであろう。

このように良いことずくめのインフラツーリズム人気だが、本格的に実施するには、安全に見学するための施設の改良や、展示の工夫、案内に当たる職員の配置など、様々な課題を乗り越えていく必要がある。

年間1万人以上の参加者を集めている高速道路関係のあるツアーでは、施設の管理用通路を一般の方に安全に利用していただけるよう、施設面での安全対策に万全を期するとともに、ツアー参加者全員に安全装備の装着を義務づけるため、装備の調達や保管・装着場所の確保などの対応も行った。ツアーには担当職員が同行して、施設に関する説明や、注意事項の説明を行う必要があるため、休日等での受入体制の整備も必要になった。このような様々なことについて、海外の事例なども参考にしながら検討し、一つ一つ実施していくといった努力が行われた結果、多数の人を集めるツアーが成り立っている。また、近年は海外からの来客も増えていることから、外国語（英語、中国語、韓国語）による音声ガイダンスを導入し、コースの案内や注意事項、各ポイントでの説明などを聞いていただけるようにした。これらの取組もあって、昨年は外国人観光客が約2割を占めるようになったそうである。

一方で、インフラツアーを実施するためには、関係する機関、職員に大きな負担が掛かっているという見過ごしてはならない現実もある。以前の一時期、インフラにかかわる広報経費のあり方が問題となったこともあったが、インフラツアーを継続的に実施するには、資金面、体制面でまだまだ課題も多いというのが現場の実感ではないだろうか。

インフラツーリズムを一過性のものに終わらせないためには、更なる安全の確保、展示・説明の一層のレベルアップ、女性参加者が快適に過ごせるような環境の整備など様々な課題がある。地域に集客の利益を波及させるための仕掛けも、まだまだ工夫が必要だ。施設管理者や旅行会社など関係者が創意工夫してこれらの課題を乗り越えていくことで、参加者、施設管理者、地域の「三方良し」のツアーに育てていきたいものである。

平成29年２月26日（日）

首都圏中央連絡自動車道　境古河ＩＣ～つくば中央ＩＣ開通

～東名高速から東関東道の６つの放射道路が接続～

国土交通省とNEXCO東日本が共同で事業を進めている、圏央道（首都圏中央連絡自動車道）境古河IC~つくば中央ICが、平成29年2月26日（日）に開通する。

今回の開通により、成田空港から日光・那須などの観光地へのアクセスが向上し観光周遊の促進が期待される。

さらに、都心経由に比べ、渋滞のリスク減少、時間短縮などにより、成田空港から、富岡製糸場、川越、秩父までのアクセスも向上する。ルートを圏央道経由に変更することを検討しているバス会社もあり、より多くのルートが選択可能となる。

また、圏央道（東名高速~東関東道）沿線に立地する大型物流施設約1，600件において、生産性向上が加速する可能性がある。

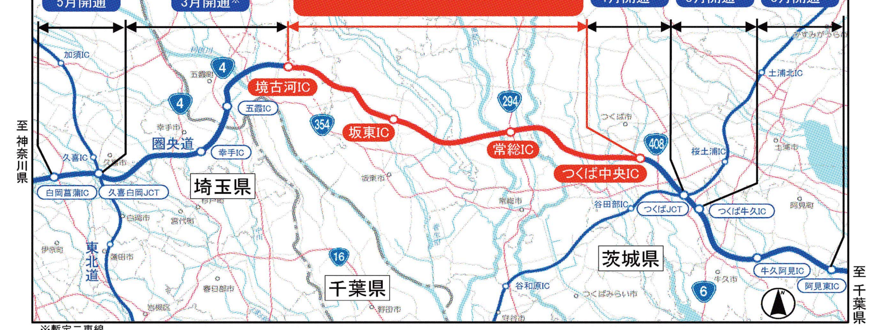
そして、茨城県は、工場立地件数が3年連続で全国第1位であり、区画整理事業等の取組も進んでおり、更なる企業立地が期待される。

今回の開通により、圏央道は神奈川県の釜利谷JCTから千葉県の木更津JCTまで一都四県が結ばれる。

これで未開通区間は、千葉県の大栄JCT~松尾横芝IC、神奈川県の藤沢IC~釜利谷JCTとなる。

【開通日】
平成29年2月26日（日）

【開通区間】
首都圏中央連絡自動車道（境古河IC~つくば中央IC）／28・5km



※暫定二車線